

# 世界と地域で活躍する医療人の育成

三重大学の取り組み「海外医学部と連携した臨床医学教育」が、文部科学省の平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。

海外での医療・医学教育の経験が、これからの医学教育や地域医療に活かされることを期待されています。



海外での臨床実習 学生交換事業のパートナー大学 (8カ国17大学)



◎2004年度/14名 ◎2005年度/6名 ◎2006年度/11名 (ウェイン州立大学・コンケン大学・上海交通大学などより)



### 臨床医学教育カリキュラム

1~4年次 ● 基礎医学教育、チュートリアル教育

5年次 ● すべての臨床科での必修実習

6年次 ● 希望する関係教育病院での  
選択臨床実習  
国内  
学生は実習期間(1期4週×4期)  
の中で実習先を選ぶ

### 国際性豊かな臨床医学教育プログラム

● 医学部の6年生のカリキュラムの一つ「選択臨床実習」は海外でも学ぶことができます。

① 期間: 実習期間中で、1期4週間 (最長2期=8週間)

② 実習先: 行きたい国や大学を選択

③ 資格: 「学びたい」という気持ちがあれば、成績・語学力にかかわらず誰でも学ぶことが可能

選択臨床実習  
として、単位認定  
されます。

参加した学生のうち、約98%が「臨床医として役に立つ」「後輩にも海外臨床実習を勧める」と答えています。学生の皆さんが、海外実習で視野を広げ、海外で学んだことを地域で活かしてくれることを期待しています。

堀 浩樹  
(三重大学大学院医学系研究科・准教授)

### ◎ 選択臨床実習を海外で学ぶ

#### 「命の尊さ」

地域に暮らす人々と共に生活することで、命を守るために何が必要とされるのかなど、より深い倫理観を養います。

タンザニアにある病院の新生児室では、毎日4~5人の赤ちゃんが死亡しています。その現実や医療体験を通して、「生きる」こと、「命」について学びます。



ムヒンビリ病院新生児室 (タンザニア) 病棟実習

#### 先進的な「医療と教育」

先進医療や先進的な医学教育に触れ、また医療技術を体験し、将来の指導者としての能力を養成。先進的な医療の担い手としての視野を広げます。

米国などの厳しく管理された臨床教育システムを実際に体験し、将来への展望につなげていきます。



ミシガン小児病院 (米国) モーニング・カンファレンス風景

#### 「地域医療」の原点

発展途上国には、地域医療の原点があります。この実習では、地域医療の発展過程、限られた医療資源のなかでの保健・医療のあり方を学びます。

アジア・アフリカの発展途上国には、貧困や貧富の差などの社会的問題があります。医療を文化人類学的、倫理的、社会学的側面から考える機会です。



コンケン大学 (タイ)

#### 「熱帯地域特有」の病気

マラリア・デング熱・風土病などの輸入感染症の増加が懸念されています。様々な病気を体験し、診療能力を養います。

タンザニアやザンビアでは、新生児病棟に入院する赤ちゃんの約30%がHIVに感染しています。HIV感染症や結核、髄膜炎、赤痢などの日本では診療機会が少ない感染症について学びます。



HIV感染者に対する抗レトロウイルス治療薬 (ARV) の啓発ポスター

### ◎ 海外実習の流れ

#### ★ 事前準備 ★

##### ● 「海外実習派遣前研修会」の開催

海外での実習にあたり、実践英会話を始め、海外における健康・安全・危機管理など実習中の生活全般に関する注意や、授業評価の説明などの研修会を開催。

##### ● 渡航前の実習担当教員との情報交換

#### ★ 実習中 (滞在中) ★

##### ● Weekly Reportの提出

◎ インターネットを利用し、英語で提出  
◎ 毎週1回 (weekly) 報告

##### ● 海外指導医による評価

#### ★ 報告会 (帰国後) ★

##### ● 海外実習報告書の提出

##### ● 海外臨床実習報告会

「生きること、死ぬことの意味を真剣に考える機会になった」という声が!

#### 講演・報告・シンポジウム

##### ● 「国際臨床教育フォーラム」開催

◎ 三重大学の取り組みを広く全国の医学教育関係者、学生と共有

◎ 医学教育の国際化と我が国の医学教育の方向性について考える

2007.10.20 (土) (於) 三重県医師会館

